

## 優秀賞

「ホバート」 アニタ ブリッグズ (金の星社)

フードビジネス学科 福井保奈実

この、「ホバート」という本は、ミルズさんという人が経営しているある牧場で  
のびのびと暮らす子豚のホバートとと、その兄弟3匹の物語です。

仲良く暮らす兄弟4人は、それぞれ特技またその特技を生かした夢がありました。  
そして、その夢に向かい毎日頑張っていました。しかしある日、自分たちは  
いずれ食べられてしまう運命だと知り、絶望し、夢も失いました。

残酷な運命を知り、みんな絶望の中、ホバートだけは違いました。夢をあきらめ  
なったのです。

そんなホバートを、兄弟たちは、「食べられるのだから、夢なんか持っても無駄」  
だと呆れるように見ていました。

とうとう、精肉業者が来るとなった前夜、ホバートは兄弟たちを説得し、農場か  
ら脱出することにしました。それぞれの夢に向かって進むことに決めたのです。  
牧場から逃げ出した4匹は、毎日毎日夢に向かい特技をさらに磨きました。

そして、それぞれ特技を極めた兄弟たちは、飼い主のミルズさん の所へ  
もどり、その特技を披露しよう決めます。

牧場に戻り特技を披露した兄弟たち、そこで奇跡が起こったのです。

そこで起こった奇跡とは。子豚たちの必死に生きようとする姿から沢山の事が  
学べる本です。

私は、この本を初めて読んだ小学生の時どんな状況にあっても夢を持ち続け輝  
いていたホバートの姿から、夢を持つ大切さ、そしてあきらめない事大切さを  
学びました。

そして、少し大人になり改めて読んでみると、また違ったメッセージがあると気  
付かされました。それは、命の大切さです。いつも当たり前のように食べている  
豚肉や牛肉。しかしどれにも尊い命があります。それは、家畜として飼われてい  
ても変わりません。

そしてそれを考えた時、感謝の気持ちを忘れずにいようと改めて思いました。

そんな、沢山のメッセージが詰まった「ホバート」。

子どもが読む本だろうと思っている方も、一度本を手に取り読んでみてくださ  
い。